学校支援活動事業訪問

本宮市訪問【本宮市立本宮小学校】
訪問日：平成３１年１月２３日（水）９：１５～１０：００
場　所：本宮市立本宮小学校
内　容：３年社会科「古い道具と昔のくらし」の学習支援ボランティア

「着てください。触ってください。感じてください。」
ボランティアの伊藤さんは、語り部の服装で子どもたちに優しく話しかけます。子どもたちの目の前には、石臼、鉄瓶、むしろ、寝巻き、わら草履、しょいこ等、様々な昔の道具などが所狭しと並べられています。これらは、全て伊藤さんの自宅に保存されていたものだそうです。子どもたちの目は、それらの道具や物に釘付けです。
伊藤さんは、実物を使いながら、今と昔の暮らしを比較して、衣食住の道具の使われ方の説明を行いました。また、暮らしの中に自然に対する畏敬の念や感謝の気持ちがあったことも伝えていました。どの子も目を輝かせながら、伊藤さんの話に聞き入っていました。説明の後、子どもたちは、着物に袖を通したり、わら草履をはいたり、鉄瓶を持ったりと、目の前の道具に実際に触れて、歓声をあげながら昔の暮らしに思いを馳せていました。

児童の感想

・わらでリュックを作ったりして、昔の人は大変だと思った。わらで作られた物が他にもあるかどうか調べてみたい。
・綿入れを着たら暖かかった。かまどや囲炉裏など、寒いときに工夫していたんだなと思った。

ボランティアの方の声

綿入れに触ると、子どもたちの目つきが優しくなる。ぬくもりを感じるからだと思う。今は便利になり、教科書やパソコンで何でも調べられる。でも、実際に本物を見たり触ったりした経験にはかなわない。本物の手触りは、子どもたちの心を豊かにしていくと思っている。

校長先生の思い

ボランティアやコーディネーターの皆さんは、日頃から学校へ来てくださっているので、顔の見える関係になっている。そのような関係の方々に、認められたり褒められたりすることは、子どもたちの自己肯定感の形成につながっていく。これは、教科指導の枠を超えて大切なことだと感じている。子どもたちの自己実現を図る上でも、地域の方々の協力を得ることは、これから益々大切になってくると思っている。

今回の訪問を通して、学校とコーディネーター、コーディネーターとボランティア、ボランティアと学校、それぞれのつながりがうまく結びついていると感じました。また、このような顔と顔が見える関係が、安定した学校支援活動につながり、最終的には子どもたちのためになっていくと思います。これらもひとえに、本宮市での学校支援活動のシステムが長年継続されており、地域にしっかり根付いているからこそ可能になっていると感じた訪問でした。